



笠井 剛先生

千葉大学医学部卒。医学博士。同耳鼻咽喉科学教室入局、君津中央病院耳鼻咽喉科医長、横須賀共済病院耳鼻咽喉科医長、国立がんセンター病院頭頸部外科医員、千葉大学医学部耳鼻咽喉科非常勤講師等を経て、平成11年 笠井耳鼻咽喉科クリニック・自由が丘診療室を開設する。http://www.linkclub.or.jp/enkasai

## 突然、耳が聞こえなくなる突発性難聴は 発症後2週間以内の治療が肝心！

ある日突然、耳の聞こえが悪くなり、耳鳴りやめまいを伴うこともある「突発性難聴」。

日本では、毎年2万人以上がこの病気にかかっているという。

気づきかけは朝に目覚めたときや、電話をかけているとき、ヘッドホンで音楽を聴いているときなどさまざま。「蝸牛」と呼ばれる音を感じる器官の中の神経細胞がダメージを受けて起こるものとされているが、詳しいメカニズムは解明されていない。

「突発性難聴が起こる原因は、まだよくわかっていませんが、風邪やヘルペスなどの「ウイルス説」、内耳の「血液循環障害説」、アレルギー説」などが

有力とされています」

と語るのは、たくさんの突発性難聴患者の診療にあたる笠井耳鼻咽喉科クリニックの笠井剛先生。突発性難聴の診断基準にも「原因が不明」という項があるように、実態がわからないことだらけの病気なのだ。

「この病気が怖いのは、いつ誰にでも起こりうること。問診すると、睡眠不足、疲れぎみなどと答える人も多いので、ストレスが影響しているのかもしれない」

笠井先生のクリニックにも、20〜50代の働き盛り世代の受診が多い。持病や遺伝に関係なく突然発症するため、患者には「交通事故に遭うようなもの」と説明しているという。

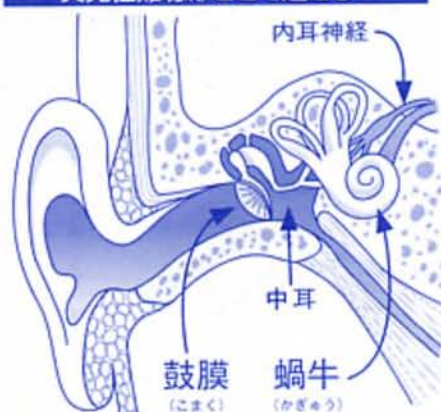
症状は、片耳だけに起こることが多い。日常の会話で使われる音は、2500〜30000Hzの周波数の音域が多いが、それより低い音域や高い音域に難聴がある場合は、なかなか気づきにくい。

「症状が軽い場合ももっとわかりにくいので、自分が突発性難聴だと気づかず生活している人もかなり多いのではないかと思います」

と、笠井先生。音が二重に聞こえる、耳が詰まったように感じる、自分の話す声に違和感がある、めまいや吐き気、ふらつきがある、などの症状に気がついたら、すぐに受診をしたほうがいいだろう。

「早い時期に治療したほうが治りやすいため、発症後1〜2週

### 突発性難聴はここで起こる！



内耳の中の「蝸牛」は音を感じる器官。この中の神経細胞がダメージを受けると突発性難聴になると考えられている。

### 突発性難聴自己チェック

この症状に気づいたら、早めの受診を！

- ・ついさっきまでなんともなかったのに突然、聞こえが悪くなった
- ・なぜ耳が聞こえなくなったのか、原因がわからない
- ・難聴に気づくのと同時に、耳鳴り、めまい、吐き気、おう吐などを感じる



間以内に始めたほうがいいでしょう。1か月を過ぎると、回復の見込みはほとんどなくなります」

治療には、ビタミン剤やステロイド薬、血流をよくする薬などが用いられるが、発症時に聴力が完全になくなってしまったり、めまいを伴う強い難聴がある人は治療効果が上がらないこともある。

「また、その時点で突発性難聴と診断されても、あとになって聴神経腫瘍が見つかったり、メニエル病が隠れている可能性もありますので、治ったあとにも定期的に受診し、聴力検査を受けることをおすすめします」

と、かく耳に違和感を感じたらすぐに受診を。早めの治療が肝心となる。